ひがしデジタルアーカイブ

ひがしの橋の写真展

higashi

hashi

shashin

~ひがしの中に橋がある 写真の中に橋がある~

【第1部】 令和5年1月4日~令和5年1月31日 長崎市東総合事務所庁舎

【第2部】 令和5年2月1日~令和5年2月28日 長崎市東部地区にこセンター

【第3部】 令和5年3月1日~令和5年3月31日 イオン東長崎ショッピングセンター

令和 5 年 6 月 東部地区活性化実行委員会

『ひがしの橋の写真展』について

東部地区活性化実行委員会*は、長崎市東部地区の過去の風景、生活の様子、祭事などを収めた貴重な写真や映像をデジタル化し、蓄積・長期保存のうえ、様々な方法で活用していくことで地域愛の醸成につなげる『ひがしデジタルアーカイブ』に取り組んでいます。

今回のテーマは"橋"。明治期から残る石橋、今は存在しない幻のアーチ、 近代ブリッジ、橋にまつわるエピソード…。ひがしの橋のハシからハシまで、 どうぞご覧ください。

また、当実行委員会は、地域活性化を目的としたデジタルアーカイブ事業として、東部地区ゆかりの古写真や貴重な映像を収集していますので、古写真等をお持ちの方でご協力いただける方は、ぜひ長崎市東総合事務所までご連絡ください。

※東部地区活性化実行委員会…東部地区の活性化を目的として各地区(日見、矢上、古賀、戸石、橘、高城台)の代表者で組織する会議です。デジタルアーカイブは、長崎市東総合事務所との連携事業です。

[協力・参考] **ありがとうございました。**

◆監修・写真提供 織田武人氏(諫早史談会)

◆取 材 野口良德氏(現川町)

◆絵画撮影 肥前屋

◆写真提供 長崎市(防災危機管理室)

◆説明文参考 記念誌『2000 年の東長崎』(東長崎地区連合自治会発行)

刊行誌『長崎市の文化財(第6版)』(長崎市教育委員会発行)

長崎さるく長崎街道説明板(長崎市設置)

長崎市(文化財課及び景観推進室)ホームページ

長崎県(学芸文化課) ホームページ

◆現地調査参考 写真ブログ『みさき道人"長崎・佐賀・天草 etc. 風来紀行"』

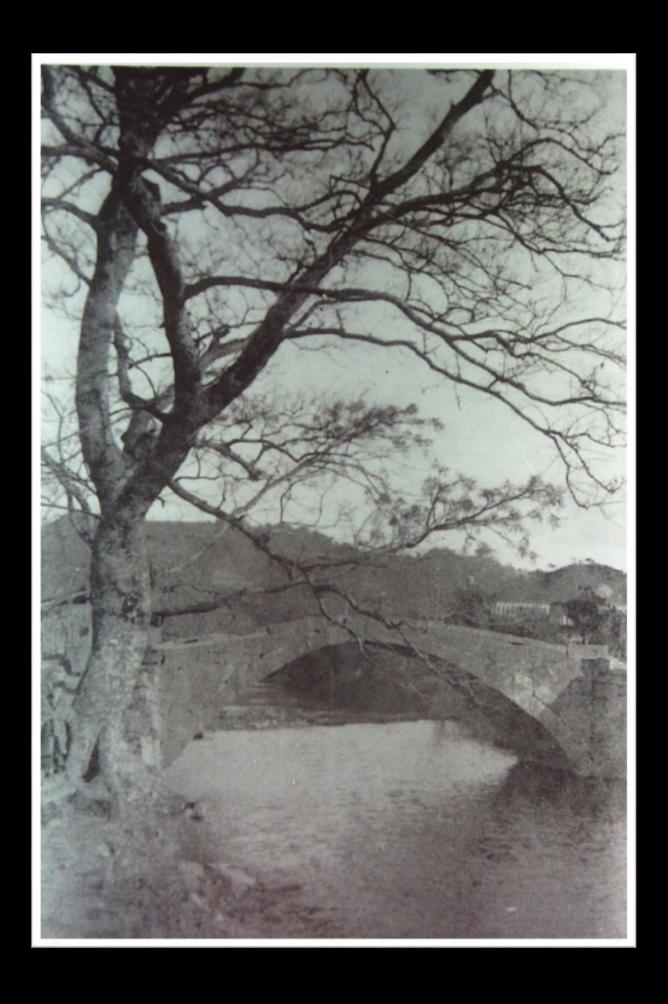
◆展 示 イオン東長崎ショッピングセンター

東部地区活性化実行委員会

ひがしの橋の写真展で展示した橋の位置図 higashi hashi shashin

1-24 HUE ※ 横の場所などを確認されたい場合は、本地図の文字や道路などが小さいため、恐れ入りますが、お持ちの携帯カメラなどで接写のうえ、拡大してご覧ください。

1 番所橋 Banshobashi~2代目~『中尾川』



1 番所橋 Banshobashi~3代目~『中尾川』



1 香所橋 Banshobashi~現在4代目~ 『中尾川』



江戸時代、東の玄関口・矢上宿は、長崎街道と島原街道との合流点に位置し、矢上番所では役人が旅人の警備や取り締まりを厳重に行なっていました。その番所付近の中尾河畔に番所橋が架けられました。

初代の番所橋は、天保9年(1838)に佐賀藩により架設されましたが、慶応3年(1867)の洪水により流出。2代目は初代の石材を使用して明治5年(1872)に再架設され、大正12年(1923)には3代目が鉄筋コンクリートでつくられました。

現在の番所橋は昭和61年(1986)架設の4代目。親柱を由緒ある擬宝珠にしています。

①山川橋 Yamagawabashi 『現川川』



②樫ノ木渡瀬橋 Kashinokiwatasebashi 『現川川』



③小藤橋 Kofujibashi 『現川川』



④山の神橋 Yamanokamibashi 『現川川』



明治2~3年(1869~1870) 頃治2~3年(1869~1870) 頃に中島土市氏が、本河内の協構を得して、現川は5つ時代の協議を得ると、現川川に5つ時代の大路では、大路では、大路では、大路では、大水害によりする。

アーチの命ともいえる輪石の 架け方は、野面石(のづらいし) を削らず、ほぼそのままのかた ちで、崩れることなく組み重ね るという、常軌を逸した工法で あったとされています。

※ 展示している写真以外で、現川の 石橋の古写真をお持ちの方がいらっ しゃれば、デジタルアーカイブで保 存・活用させていただきたいので、 長崎市東総合事務所地域福祉課まで 是非ご連絡ください。

2 現川の石橋 ~現在~

①山川橋



③小藤橋



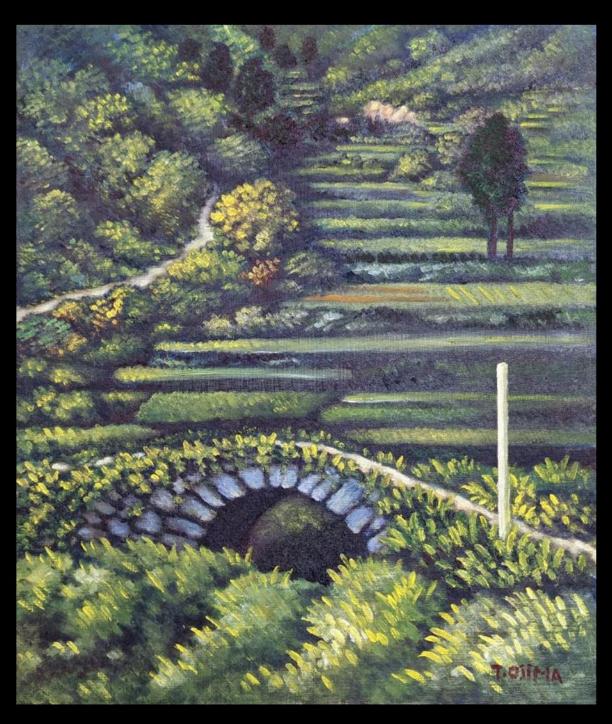
②樫ノ木渡瀬橋(現在の屋敷橋)



④山の神橋



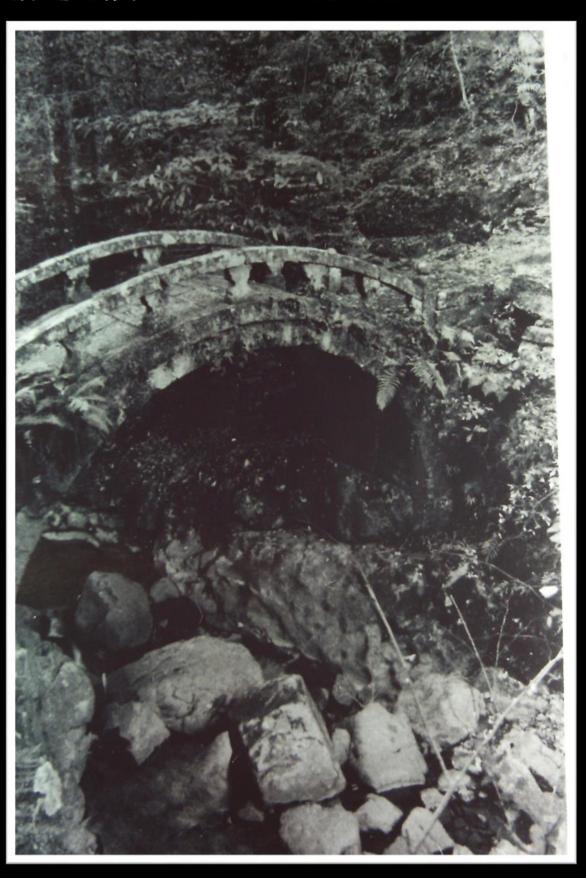
2 【絵画】小藤橋



尾島延正氏作『現川石橋』 (昭和53年5月長崎市に寄贈)

3 滝の観音の石橋

①羅漢橋 Rakanbashi [間の瀬川]



3 滝の観音の石橋

②普済橋 Fusaibashi [間の瀬川]



3 滝の観音の石橋 ~現在(復元後)~

①羅漢橋



②普済橋



滝の観音は、万治3年(1660)黄檗木庵の法子・鉄巌(てつがん)が禅堂を建て、寛文7年(1667)に中国の富商・許登授が本堂を寄進しました。本尊の魚籃(ぎょらん)観音像も彼が寄進したものです。昭和39年(1964)に県で初めての名勝に指定されました。境内には、元禄期(1670)以前に架橋された唐式の羅漢橋と普済橋がありました。長崎大水害により流失しましたが、石橋研究者である山口祐造氏の設計により、昭和61年(1986)に羅漢橋が、翌年には普済橋が復元されました。

4 鮎帰橋 Ayukaerihashi 『中尾川』



4 鮎帰橋 ~現在(復元後)~





5 古賀・船石の石橋

①善八橋 Zenpachibashi~現在~『正念川』



②千歳橋 Sensaibashi~現在~『八郎川』



5 古賀・船石の石橋

③下大野橋 Shimoohnohashi~現在~『千束野川』



古賀・船石地区には、明治期に架橋された石橋が数多く見られましたが、昭和57年(1982)の長崎大水害により多くが流失しました。写真①善八橋(架設時期不明)、②千歳橋(明治45年(1912)架設)、③下大野橋(昭和35年(1960)架設)は、水害に耐え残った数少ない橋梁で、当地区の石橋の歴史を伝える貴重な遺産です。

6 東望橋と矢上大橋 Touboubashi & Yagamiohhashi [八郎川]

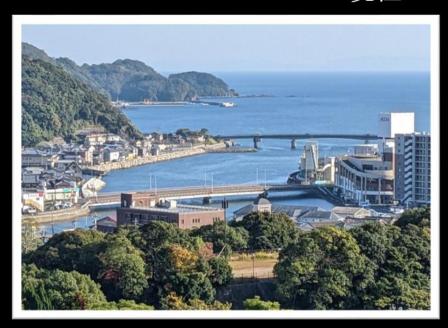


この付近は以前は海岸でしたが、昭和30年代後半頃から海水の汚染騒ぎや白砂が波で流されて水が濁りやすくなってきたことから、昭和41年(1966)に海水浴場を廃止。昭和43年(1968)から48年(1973)にかけて企業誘致のために約20万平米を埋め立て、昭和50年(1975)には長崎市中央卸売市場がオープンしました。

その後、東望橋が昭和59年(1984)に、矢上大橋が翌年(1985)に完成。上の写真は、架設中の東望橋が確認でき、まだ矢上大橋が存在しない、その僅かの期間に撮影されたものです。今では、両橋ともに生活・流通になくてはならない重要な橋となりました。

6 東望橋と矢上大橋

~現在~



6 東望の浜海水浴場

~昭和20年代~



7 牧島橋 Makishimabashi [橘湾]



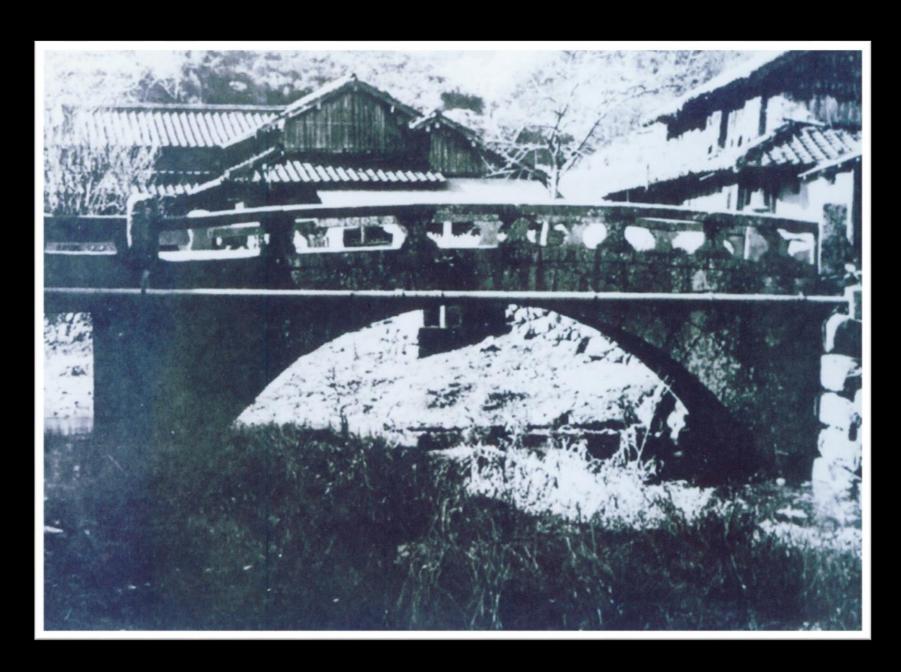
7 牧戸橋 Makitobashi と牧島橋跡 ~現在~



牧島は、もともと無人島でしたが、貞享年間(1680年代)に佐賀藩諫早家の牧場として馬番が居住し、漁業と農業を兼ねて生活していたことから、「牧島」と名付けられたといわれています。

昭和35年(1960)4月に竣工した牧島橋は、"人が通っても決して下がらない吊り橋"といわれていました。橋と自然が調和した景観が話題となり、牧島の名勝として、長崎方面からの見物客も多かったそうです。

現在は、車も通行できる「牧戸橋」(昭和44年完成)が 役目を引き継ぎ、牧島橋は両岸の塔のみを残して、往時の 面影を残しています。



8 三国屋橋 Mikuniyabashi~現在~ [日見川]



旧長崎街道にあった25の宿場のひとつ日見宿は、旅人が休憩するための継ぎ場(人馬の中継所)であるとともに、 "御用物継送五百五十人" "宿継御状箱継送百四十四 人"などの記述が古い資料にもあることから、情報伝達 や物流を担う重要な公的中継基地でもあったようです。

ある日、日見宿の三国屋という酒屋で、飛脚も兼業していた主人・五郎七は、江戸からの書状を長崎代官用に届けることになりました。しかし、降り続く雨で日見川が氾濫していて、とても届けられる状況ではありませんでした。そこで五郎七は、意を決し裸になり、書状を頭に巻いて、濁流を泳ぎ渡り、無事代官所に届けることを知った代官は、五郎七の行為をできました。このことを知った代官は、五郎七の行為を讃え、褒美としてアーチ型の石橋を架け、『三国屋橋』と命名したといわれています。現在の橋は、昭和44年(1969)6月に完成したものです。

8 [絵画]三国屋橋



所蔵:肥前屋 作者及び年代等:不明 ※作品の裏書に「日見男・宿 中島 56-b.」との記載あり

9 日見夢大橋 Himiyumeohhashi [芒塚町]



日見夢大橋は、長崎自動車道の長崎多良見ICから長崎ICまでの区間の建設に伴い芒塚町に架けられたもので、平成16年(2004)3月にI期線(長さ365.0m)が、平成31年(2019)3月にⅡ期線(長さ373.5m)が開通しました。橋桁の高さは最も高いところで48メートル。自然と調和した

美しさと、長崎大水害からの 復興を象徴するような力強さ が感じられる、日見地区のシ ンボル的な橋梁です。

日見夢大橋という橋名は、 松尾春花さん(当時日見小3年) による命名です。



崩れ落ちるのではないかと思ってしまう つながる直前のⅡ期線工事中の写真

9 1982.7.23 長崎大水害 [世塚町]



10 ライトアップされた長龍寺橋 Chouryuujibashi 『八郎川』



桜の季節の八郎川周辺のライトアップ。 長龍寺橋も美しく輝き、普段とは違った幻想的な雰囲気が楽しめます!